

寄贈品コーナー 2003年9月18日(木)～10月30日(木)10月31日まで

「のぞいてみよう！大昔のくらし～万田貝塚～」の紹介

今年も9月10日～18日に18大学19名の大学生が博物館実習生として館の仕事を体験していきました。ガイダンス、資料整理、漂着物を拾う会の参加などを経て、後半三日間に実習の集大成である展示制作を行いました。今回、実習生に提示した資料は、今年8月に平塚市在住の山崎実氏から寄贈されたばかりの万田貝塚遺跡出土品です。山崎氏のコレクションは膨大な量にのぼり、たいへん貴重な資料も含まれています。これを展示するにあたり、実習生へ「小学4年生でも理解できる展示」を作るよう指示を出しました。議論を重ね、試行錯誤を繰り返して完成した展示は、随所に子供たちを意識したアイデアがちりばめられています。以下に、実習生の創意工夫のいくつかを紹介しましょう。

絵心いっぱい 美術専攻の女子大生が例年より多かったせいか、全体にカラフルな感じで、うまくレイアウトされています。とくに目立つのは、ケース内壁面に貼った模造紙四枚分の大きな絵です。海で網をたぐる場面と森で鹿を射る場面が中央の大木でうまく仕切られています。遠くからお客さんを惹き付ける効果も充分にあります。また、解説文の内容が絵解きになっているのも面白く、子供を意識して「モンタ」なる縄文の子供を登場させ、モンタが両親の仕事を紹介する形で説明しています。惜しむらくはモンタ君のキャラクターデザインがあればさらに良かったのでは。全体に、絵と解説文、展示資料がうまく結びついて相乗効果を出しています。

模様付け方 縄文土器の模様は、様々な道具で描かれています。縄、爪、割竹、竹串、貝殻などです。どんな道具で描かれた模様なのかを分かりやすく展示してあります。

クイズと体験コーナー 一見用途不明の骨や石を並べて、何に使うか当ててもらおうクイズコーナーを設けました。まず、モノをじっくり観察して、想像力を働かせ、回答を得るために展示を観る。そんな意図から導入にクイズを設けました。また、体験コーナーではブラックボックスに手を入れて土器などに触れられる仕組みを作りました。

じつは、子供にも分かる展示を作るのは難しいことです。今回の展示では、絵やタイトル文字で子供たちを惹き付け、情報量は絞り込み、資料の使い方を絵や見せ方でわかりやすく伝える工夫が施されています。博物館によく寄せられる「字が小さい」「説明が無い」「難しい」といったご批判を今回に限っては受けずに済むだろうと思います。ぜひ一度ご覧ください。

